

# ProMED-mail情報 2019年 9月版

ProMED-mail <https://www.promedmail.org/> の記事から、感染症業務関係者の皆さまにピックアップ記事を紹介します。FORTH（厚生労働省検疫所の情報提供サイト <https://www.forth.go.jp/>）に掲載されるものは省略しています。

編集：厚生労働省福岡検疫所

掲載日	表題	概要
28日	サル痘、天然痘 米国	FDAはBavarian Nordic社のサル痘非複製生ワクチン「ジーニアス」を認可。サル痘、天然痘ハイリスクの18歳以上に適応。サル痘は中央、西アフリカの風土病で、致死率10%以上の希な人獣共通感染症。従来の複製天然痘ワクチンはサル痘にも有効とされていたが、2003年サル痘流行の際、より安全なワクチンが求められていた。
26日	パラチフス 北朝鮮	最近の台風被害後の咸鏡南道、平安南道でパラチフスの流行。主感染源は老朽水道に汚染水。河川氾濫で今年の穀物も荒廃。
24日	黄熱 ナイジェリア	2019年27～38週バウチ州を筆頭に5州から243例の疑い報告。IgM陽性10例、PCR陽性28例。死亡34例（死亡率14.9%）。
19日	A型肝炎 韓国	韓国のA型肝炎は例年希であるが、この夏11,000例以上の大流行。原因が貝の塩辛食品と確定。9月の当局調査で、10製品にA型肝炎ウイルスを検出。9製品は中国から輸入、1製品は韓国産。当局は販売中止と輸入時のA型肝炎ウイルス検査を求めた。
18日	リステリア症 フランス	2018年2月から2019年8月の間、Ferme Durr製ナチュラルチーズによる食中毒発生。36歳から93歳までの7名が発症し、2名死亡。潜伏期間は最長70日。2017年ヨーロッパで計2,480例報告され、死亡率は14%。汚染食品は主に、魚の燻製、生ハム、生チーズ。
17日	野兎病 スウェーデン	7月以降、主にDalilven川北地区からの死亡ノウサギ84匹を、国立獣医学研究所で病理検査。22匹に、PCR又は免疫生化学検査でツラレミアの確定診断。野兎病のヒト感染地域とノウサギの流行地域は一致。
17日	アフリカ豚コレラ アジア	国際獣疫事務局へアジア9カ国が報告。中国(2018年8月)、モンゴル(2019年1月)、ベトナム(2019年2月)、カンボジア(2019年3月)、北朝鮮(2019年5月)、ラオス(2019年6月)、ミャンマー(2019年8月)、フィリピン(2019年7月)、韓国(2019年9月)。北朝鮮は、5月以降経過の報告なし。
17日	狂犬病 米国	8月29日サウスダコタ州の感染子犬と兄弟犬4匹からヒト感染疑い。9月6日カリフォルニア州の感染狐が、3人のヒト襲撃。9月8日同州感染アナグマが、3人のヒト襲撃。9月9日マサチューセッツ州の感染スカンクの女兒咬創に、緊急ワクチン接種施行。8月22日から9月6日までの間、サウスカロライナ州の感染子犬から計18名の感染疑い。
16日	ウエストナイル病 ヨーロッパ	今年のウマ発症報告は、ギリシア12頭、ドイツ、イタリア4頭、ハンガリー、フランス、オーストリア2頭。トリ感染報告はドイツ26匹。ほ乳類の感染発症は、主にウマとヒトに見られ、トリの多くは無症状。
15日	風しん 日本	2019年、全体で2,156例報告、うち37%は東京から。先天性風しん症候群は3例。年間450万人訪日実績の米国は、MMR接種歴のない者へ、8月に訪日警戒警報。カナダ、英国の保健当局も妊婦の訪日警戒警報。
4日	ハンタウイルス感染症 ドイツ	発症数はバイエルン州で2018年に31名、2019年はネズミが大繁殖し、224名の報告。プーマラ型ハンタウイルスの主宿主はネズミ。排泄物塵の吸入、接触、ネズミ咬傷から感染し、腎症候性出血熱（HFRS）を発症。
4日	ジフテリア インド	8月30日以降、カルナタカ州立Gulbarga医科大学で25人以上の学生が発症し治療。女子学生寮の110人を追跡調査。この流行は、耳鼻科外来患者からの院内感染。CDCは、Tdapワクチンの一回即時接種を推奨。